

# 新城新能

4時30分〜

仕舞

連調 天鼓

4時50分〜

小舞・仕舞

5時30分〜

狂言 二人袴

休憩

6時20分〜

火入式

市長あいさつ

6時30分〜

仕舞

6時45分〜

狂言 素袍落

能 船弁慶

8時30分終了予定

## ◎ 狂言

ふたりばかま  
二人袴

●登場人物 シテ／聶  
アド／親・舅・太郎冠者

聶入りのため、舅の家に行くことになった花聶が、一人では恥ずかしいというので、父親が門前までついていく。袴を持たない聶は父親のを借り、舅と初対面の挨拶をして盃事になる。門前に父親がいることを知った舅は、ぜひとも親も顔を出すようにと促すので、聶が迎えに行く。しかし袴はひとつしかない。交互にはきかえて出て何とか急場をしのぐが、そのうち一緒にでるように求められる。窮した二人は袴を前後に裂き、それぞれ前であてて出るが・・・

すおうおとし  
素袍落

●登場人物 シテ／主人  
アド／太郎冠者・伯父

伊勢参宮を思い立った主人は、かねて同行を約束していた伯父のところへ太郎冠者を使いにする。誘いを断った伯父は太郎冠者が供をすると聞いて門出の祝い酒を振舞う。酔いが回った太郎冠者。伯父をほめて主人をけなしたあげく、餞別の素袍をもらって上機嫌で帰路につく。帰りが遅いと迎えに来た主人に、落とした素袍を拾われて・・・

## ◎ 能

ふなべんけい  
船弁慶

●登場人物 子方／源義経 前シテ／静御前  
後シテ／平知盛の亡霊  
ワキ／武蔵坊弁慶  
ワキツレ／義経の従者 アイ／船頭

平家追討に功績をあげた源義経でしたが、頼朝に疑惑を持たれ、鎌倉方から追われる身となります。義経は、弁慶や従者とともに西国へ逃れようと、摂津の国大物の浦へ到着します。義経の愛妾、静御前も一行に伴って同道していましたが、女の身で困難な道のりをこれ以上進むことは難しく、弁慶の進言もあり、都に戻ることになりました。涙にくれて義経を見送ります。

静との別れを惜しみ、出発をためらう義経に、弁慶は強引に船出を命じます。すると、船が海上に出るや否や、突然暴風に見舞われ、波の上に、壇ノ浦で滅亡した平家一門の亡霊が姿を現しました。なかでも総大将であった平知盛の怨霊は、是が非でも義経を海底に沈めようと、薙刀を振りかざして襲いかかります。弁慶は、数珠をもみ、必死に五大尊明王に祈祷します。その祈りの力によって、明け方に怨霊は調伏されて彼方の沖に消え、白波ばかりが残りました。

この曲の前後のシテは、まったく異なった役柄となっており、優美さと勇壮さの対称で織りなされ、前場には優美な舞が、後場では薙刀を振るう荒々しい舞動が用意されており、変化に富む大変劇的な曲となっています。